

## 科学的社会認識を育てる授業研究

### I 主題設定の理由

社会科で指導する内容は、社会認識である。それを科学的に考えていくところに科学的社会認識がある。その過程においては、事実認識・関係認識・主体認識がある。それぞれにどのような資料を使い、どのような手だてをとっていくかが大切である。この認識力を養うことが社会科のねらいの一つである。基礎・基本が習得され、ある単元で学んだことと身につけた認識力が他の単元にも応用できること。このことこそが、科学的社会認識を身につけたということではないだろうか。

### II 研究の内容

#### 1. 小学校部会

科学的社会認識を育てる授業研究を支える観点として「楽しい社会科授業の創造」「習得型社会科授業」「資料をいかした社会科授業」「活用型・探究型社会科授業」の4点を設定した。実践をもとにした研究を進めるために、研究授業における事実をもとに研究を進める。それとともに、各部員が自分の実践を持ち寄り報告することで、日々の実践につなげられるようにした。

##### (1) 授業実践研究 (山梨小)

「日本一のぶどう作り (農家のしごと)」 3年 畠山 忠教諭

##### (2) 実践報告・情報交換

##### (3) 臨地研修 小田原上條集落 (甲州市)

#### 2. 中学校部会

科学的社会認識を獲得するために必要な方法を研究することにより、次のような生徒の育成につながるものと考え研究を進めてきた。

ア 学習課題に主体的に向き合える生徒

イ 追究すべき課題を明確にとらえることのできる生徒

ウ 自ら、また他者と協力して考えを深め、客観的な判断を下すことのできる生徒

エ 出した結論を様々な資料や他者の意見を参考にしながら検証できる生徒

このことこそが、最終的に公民的資質を持った人間形成につながると考える。そこで、生徒にとって身近な資料を活用することは、「その結果」を導き出す際の大きな手がかりとなるはずであり、それは科学的社会認識を育てるための一つの手段ともなるのだと考える。

##### (1) 授業研究の実施

題材「地租改正と山梨県」 酒井理恵子先生 (塩山中)

##### (2) 臨地研修 … 釈迦堂遺跡博物館

##### (3) 各自の授業実践報告・情報交換

### Ⅲ 成果と課題

#### 1. 小学校部会

- (1) 授業者も部員も、ぶどうづくりの工夫や農家の方の願いを知り、とても勉強になった。
- (2) 子どもたちにとって、地域を素材として学ぶことは、地域そのものを知り、地域に誇りを持ち、地域の人々の生き様を知り、将来に向けての公民的資質の基礎を醸成することにつながる。今回の研究は、そのための格好の題材であり、地域教材として有効であった。
- (3) 農家の人々の思い・願いを受け止めることができた授業だった。地域教材の授業に向けて、毎年の取り組みは部会の財産である。
- (4) これまでの個人の社会科実践を発表いただくことで、課題に迫るいろいろな手立てを学ぶことができ、今後の指導に活用できる資料としての位置付けともなり、よかったと思う。授業実践と同様に素晴らしい財産、宝物である。
- (5) 一人一人の先生方の実践がとても参考になった。自分が授業をするときにも活用できる内容をたくさん教えていただき、引き出しが増えてよかった。
- (6) 部会の持ち方について、無理なく、スムーズに部会が持てたと思う。限られた設定日を最大有効に利用するという考えれば、今回の方法はよかった。
- (7) 9月初めの研究授業は、時期的に辛いものがある。
- (8) 身近な地域の重要伝統的建造物群保存地区にガイド付きで見学でき、とても有意義な時間となった。今後も、東山地区のみならず県内の文化財や文化的景観を見て回る研修が計画されるとよい。
- (9) 地域にこんな素晴らしい歴史があることを実感した。地域だから知らない、関心を持たないことが多々あるように思う。地域素材の掘り起こしとして、素晴らしい臨地研修であったと思う。

#### 2. 中学校部会

- (1) 適切な資料をもとにして、研究授業を実施することができた。
- (2) 釈迦堂遺跡博物館での臨地研修では、この地域に果たした役割など、身近な地域資料を開発したり、研究を深めることができた。
- (3) 授業研究は、身近な地域の資料を題材にしたものであり、本部会の研究テーマにもとづいた研究実践となった。酒井先生の授業研究は全国教育研究集会でも報告され、東山梨および山梨教育の大きな成果となった。
- (4) 授業研究を中心として研究を深めることは、社会科教師の力量を高めるのに有効である。
- (5) 来年度も継続した研究を進めていきたいと考えるが、一方で、共同授業案づくりや新教育課程での授業づくりなど、部会としてさらに検討していきたい。
- (6) 小中学校の連携を図り、相互の交流の機会をつくるよう工夫したい。

(小学校部長 中村 賢司 塩山北小)  
(中学校部長 立川 慶樹 勝沼中 )